

鼻腔検体によるSARS-CoV-2ラピッド抗原の臨床性能試験

◎上田 淳夫¹⁾、明石 祐作¹⁾、竹内 優都²⁾、喜安 嘉彦¹⁾、寺田 教彦²⁾、野竹 重幸¹⁾、中村 浩司¹⁾、鈴木 広道²⁾
筑波メディカルセンター病院¹⁾、筑波大学附属病院²⁾

【はじめに】鼻腔からの検体採取は侵襲が低く咳反射の誘発が少ないため、鼻咽頭からの検体採取より容易である。しかし、鼻腔検体における抗原検査の有用性を評価した研究は少ない。本研究では鼻腔検体を用い、SARS-CoV-2ラピッド抗原(検試薬:ロシュ・ダイアグノスティックス社)の臨床性能を評価した。

【検討方法】2021年6月に地域・外来検査センターを受診し同意が得られた患者を対象とし、鼻腔から2本、鼻咽頭から1本綿棒で検体を採取した。検試薬は鼻腔検体を用い、感染研法によるリアルタイムRT-PCR(PCR)は鼻腔・鼻咽頭検体でそれぞれ施行した。PCRを基準検査とし、検試薬の感度・特異度を評価した。

【結果】対象者は808名、PCRでのSARS-CoV-2陽性数は鼻腔検体/鼻咽頭検体で99名/115名だった。鼻腔検体/鼻咽頭検体のPCRと比較した検試薬の感度は84%/72%、特異度は100%/100%だった。対象者を有症状者に限ると、感度88%/83%だった。Ct値<20、20-25、25-30、>30の感度は100%/93%、98/81%、93%/57%、42%/6%だった。

【まとめ】鼻腔検体を用いた場合、検試薬の偽陽性は認めなかった。有症状者や鼻咽頭検体でCt値25以下、鼻腔検体でCt値30以下の患者において感度は高かった。

連絡先 TEL 029-851-3511